

ご支援のお願い

㈱エヘガザルは乗馬体験を通し、子どもたちが生き生き過ごすことを柱として、様々な施設などの訪問も行っています。このような活動に賛同して下さる皆さまのご協力をお待ちしております。

■賛助会員

趣旨に賛同し、支えていただくための会員です。

賛助会費 3,000 円/1 年

■特別寄付

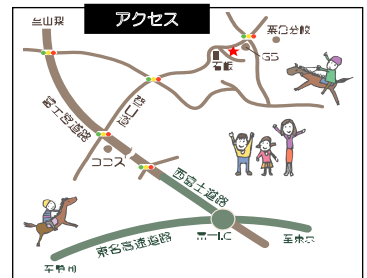
牧場運営には馬、馬具、馬房をはじめとした設備費、人件費など多額の資金が必要です。牧場維持のための資金の援助として寄付をお願いします。

■会費と寄付の振込先

郵便口座 00870-8-204945
(社)エヘガザル



グラシオで散歩。エヘガザルが始まった時の野あそび会のメンバーのH君。御殿場でのホースショーの競技会のスーパーストメダル部門で2位をとる。



自動車の場合 東名高速道路を使う方
富士IC→西富士道路→しばらく進んだ後、右折して富士山スカイライン(登山道)へ進む。
→山宮の信号を約2、5キロ直進。
看板あり富士インターより約30分
★電車、バスなど公共の交通機関はありません。

EHEGAZARU 富士宮市山宮 3645-100
☎090-4409-0401

講演会のお知らせ

講演会は、興味と関心のある方はどなたでも参加できます。

★ **安田 寛二 氏** (国立病院機構静岡富士病院小児科医師)

「広汎性発達障がいの子どもの理解に向けて」

【日 時】2013年1月19日(土)10:00~12:00
【場 所】富士山環境交流プラザ 2階会議室
【参加費】無料
【申込み】1/15(火)まで

★ **梅木 康裕 氏** (阿蘇 夢☆大地グリーンバレー)

「ホースセラピーには馬をセラピーホースに、馬の馴致について」

【日 時】2013年2月8日(金)19:00~21:00
【場 所】富士宮市民文化会館 2階第1展示室
【参加費】無料
【申込み】2/3(日)まで

★いずれも申込みは FAX 0544-58-4580 か、
または、masako326@gmail.com にご連絡ください。

冬のスケジュール

1月	2日(水)	2013年初乗り
	13日(日)	ぱからん(障がいを持つ子の乗馬会)
	19日(土)	安田寛二氏講演会 10:00~12:00 『広汎性発達障がいの子どもの理解に向けて』 会場：富士山環境交流プラザ 2F 会議室
2月	8日(金)	梅木康裕氏講演会 19:00~21:00 『ホースセラピーには馬をセラピーホースに、馬の馴致について』 会場：富士宮市文化会館 2F 第1展示室
	9日(土)	二葉乳児院職員研修 13:30~16:00
	16日(土)	野あそび会スキー教室② イエティ
3月	10日(日)	ぱからん(障がいを持つ子の乗馬会)
	20日(水)	野あそび会発表会 (予備日 24日)
	23日(土)	ボランティア講座修了式
	31日(金)	2013年度野あそび会説明会 10:00~12:00

ボランティア講座受講の皆様へ

講座の日程と会場が変わったところが幾箇所あります。はがきとPCにてお知らせしますが、届かなかった場合など、牧場または上記申し込みのFAXまたはメールにお問い合わせください。1月当初の日程は下記の通りです。

1/ 8(火)	馬体験 10:00~11:30、13:00~15:00	牧場で
1/ 9(水)	講座(玄吾②) 13:30~15:00	牧場で
1/12(土)	講座(伊藤②) 13:30~15:00	富士山交流プラザ 2F 会議室 ↑これは1/26が変更になったものです。(26日はありません)
1/12(火)	馬体験 10:00~11:30、13:00~15:00	牧場で



“馬にふれて、人に還る”

発行元：一般社団法人エヘガザル富士山牧場
エヘガザル モンゴル語 「始まりの場所」
サリフ モンゴル語で「風」を表すことば。

Vol. **27**

あけましておめでとうございます

エヘガザルは今年の4月で8年目に入ります。昨年は、エヘガザルの今後の活動の流れが明確になるいくつかの出来事がありました。【ひとつ】は、5月に多くの人々に気軽に乗馬を楽しんでもらうために馬に関わる3団体(「SFホーストレーニング」、「ホース イン フジ」、「エヘガザル」)と富士宮市北部の市議員が協力して「ふじのくに乗馬振興会」を立ち上げました。【ふたつ】には、6月の市議会で来年度から富士宮市の事業としてホースセラピーに取り組むことが明らかになりました。

【みっつ】には、山梨県八ヶ岳のホースショーのホースマンシップという競技で3位と6位の入賞者がでたこと、11月の御殿場でのオールオープンホースショーに8人が参加し、そのうち5人までが3位以上の入賞を果たしたこと。【よっつ】には、静岡県NPO活動助成事業に応募して「馬の力で人の健康をとりもどすボランティア作戦」に助成金が決定し、11月半ばから馬と子どもに関わるボランティア養成講座として3回の講演会、5つの講座と10回の馬体験が始まったことです。3月半ばまでの長い講座ですが、みなさん熱心に参加され、馬と子どもへの理解の輪が広がる喜びを感じます。これらのことに伴い、活動の幅も広がり、ひとつひとつ内容の専門性を高めることが要求されています。

12月の大運動会での野あそび会の子どもの上達ぶりには目を見張るものがありました。ご家族の方からも「馬と一緒に運動会がどんなものかと思ったがなかなかおもしろかった」、「見ごたえがあった」、「子どもたちの乗り方が見事で驚いた」などの感想が寄せられました。子どもたちは壁にぶつかり、それを乗り越え、馬との関係を深めています。今後も仲間と難しさも楽しさも共有し、世の中に出ていくとき、エヘガザルでの経験を通過点として人生を自分の力で切り開いていく一助になることと思います。これらのことは、多くの方々の協力と支援があってこそこのことで、皆さまに心から感謝しつつ、子どもたちの未来を見つめさらなる協力とご支援をお願いしたいと思っています。今年もよろしくお願ひいたします。(雅子)

■ 11/18 「馬の力で人の健康を取り戻すボランティア作戦」いよいよはじまる

11/18 開校式 — 40名を超す集まりとなり、エヘガザルの概略を知っていただくために、この計画のプレゼンテーションに使ったDVDを観てもらいました。そのあと、講座①の「子どもの現状と把握」を松村雅子が話しました。



12/1 局 博一氏講演会『馬と人の文化のこれからをみつめて』



昨年12月1日に、東大大学院農学生命科学の^高教授をお迎えして「馬と人の文化のこれからをみつめて」という講演会を開催しました。馬文化の全体像を図で示し、祭り、神事、馬の生産、農業など以前から言われている馬文化の他に、人とのふれあいに馬が価値ある存在であるということでセラピーも馬文化に含まれるとのこと。馬と人の歴史は長く、最古のハミは紀元前4000年。そこから人と馬の6000年の歩みがある。日本には5世紀頃、新羅から入ってきたのだらうといわれている。

人と馬は長い間共生関係にあり、馬は人類の保護によって種を保存し、人類は移動・狩猟・農業・軍馬などとして馬を使い文明を築いてきた。18世紀の産業革命により馬や牛など家畜を使った文明は機械文明にとってかわられ、20世紀には農業や市民生活の日常は大きく変動した。21世紀は自然と人類との共生と自然復帰の時代に向かうだろう。

馬は人々の関心をあつめる力があり、見た目の悠然とした美しさは人を惹きつけ、社会的活躍が期待される。この大きな流れの中で、馬が果たしうる役割として人間の健康増進、動物介在療法としての馬(従来からの医療と組み合わせてより高い医療効果をもたらす補完医療として馬を介在させる)や、高いクオリティ オブ ライフの発揮などについて多くのデータを用いながら可能性をいねいに検証。説得力ある講演内容でした。

11/19 馬体験初日



←「まずは、いろいろな道具の名前を覚えてもらいます」ということで、黒板に書き出し、実際の道具と合わせて説明を聞きました。受講生は熱心にメモをとっています。



ブラシをかけながら、馬の体の名称を覚ええました。

←ひづめの裏掘りは思いの外大変でした。



馬装も、ひとつひとつ名前とどう扱うのか確認しながらやりました。

←いよいよ騎乗。まったく初めて乗るという人もいて、馬の背の高さ、座り心地、馬の揺れを体感しました。



←最後に受講済の判子を押ししてもらいます。



■ 12/23 野あそび会運動会



1. いす取りゲーム



2. 輪投げゲーム



3. スラロームリレー

4. 輪乗り競争

【プログラム】

1. いす取りゲーム
2. 輪投げゲーム
3. スラロームリレー
4. 輪乗り競争
5. 引き馬競争

ちは真剣で、どちらのゲームも良い勝負でした。

スラロームリレーは、初級・中級の混合チームで争いました。ゆっくりでもコースアウトのなかった白組の作戦勝ちでした。同じ馬でも乗る人によって、随分動きが変わってしまうことが、よくわかったと思います。

輪乗り競争は、中級の子達が中心に演技しました。競技会に参加している子も出場し、流石に安定感のある見事な騎乗ぶりを披露してくれました。そろそろ野あそび会の上級を作らなければならぬかもしれません。

最後の引き馬競争では、白組の順番がゴチャゴチャになってしまい、一周多く回ってしまった結果、残念ながら負けてしまいました。『きちんと並んで待つ』という小学生の基本の部分の差が、思わぬところで出てしまったようです。

最終的に紅組の優勝で終わった大運動会ですが、勝った子も負けた子も実力を出し切れた子もそうでない子も、それなりに楽しめ、新しい目標にも気づくこともできた、良い運動会だったと思います。



12/7 講座2『発達障がいの子もたちと向き合う』伊藤昌江さん (伊藤さんは療育学校「ほおずき」の代表)



「子どもの発達」とは何か? 発達障がいとはどういうことか? 発達に困難さを持っている子どもをどう理解し、どう関わっていくか? について、日頃伊藤さんが関わっている子どもたちの具体的な事例を挙げて話されました。



12/19 講座5『馬のケアについて』中島小織さん



そもそも馬とはどういう動物なのか、ということについて詳しい話がされました。馬の食べる飼料について、馬の視力・聴力について、こんなとき馬はどう見えているのか?、どう感じているのかなど、あくまで馬の立場に立った話でした。(馬という存在をあらためて考えました)



12/21 講座3『馬とこども』松村玄吾



エヘガザルにはどういふ子どもがきているか、その子どもそれぞれが馬とどんな関わりをするか、その時大人の役割やかかわり方についての話。(ケースバイケースなので、何といっても実際の子どもの様子をみるのがいいですね)



12月23日に毎年恒例の野あそび会大運動会を開催しました。今年は全員で38人の参加で、過去最多の人数でした。当日の朝も雨が降っていましたが、運動会の間は降られることなく、予定通りに全種目行うことができました。

初級の子たちは、前半のイス取りゲームと輪投げに参加しました。普段は馬を止めることや歩かせることに、それほど苦労しない子でも、ゲームのルールの中で、あせればあせるほど思ったように行かず、苦労していました。見ている方は少々もどかしい感もあったと思いますが、本人た



5. 引き馬競争